

離島航路を考える

祝島航路の定期船「いわい」(40トン、定員72名)の老朽化に伴って、新船建造や航路についての議論がされています。島での生活には欠かせないもので、島民の関心も高く、祝島でも今までに何度か話し合いの会が開催されたり、島民アンケートも実施されました。そこで、今回は離島航路について、皆さんと共に考えてみたいと思います。



祝島航路の定期船「いわい」

離島航路は、水道・ガス・電気などと共に、島で生活する人々を支える重要なライフラインの一つです。通院・通学・仕事・買い物などのための人の移動はもとより、郵便や新聞、食品などの生活物資の運搬、島の産物の出荷、宅配便の輸送など、離島航路なしでは島での生活は成り立ちません。また、帰省客や観光客など、島を訪れる人にとっても欠かせない交通手段です。近年、「いわい」が故障して、代替船が運航するというケースも数回あり、島民の唯一の交通手段である定期船の、できるだけ早い新船建造が望まれています。

◎厳しい離島航路の経営

現在、全国の多くの離島航路で、人口減少や高齢化による利用人数の減少と燃料価格の高騰により、航路事業者の経営が難

しくなっているという現実があり、それを補助するために自治体や国などからの補助金が必要不可欠になっています。(昭和27年に施行された「離島航路整備法」によって離島航路の維持・改善が図られています。)

祝島航路も赤字が続いており、補助対象航路となっています。町としては、赤字額削減のために、定期船の小型化(20トン未満の場合は検査費用等が大幅に削減できる)や航路の見直し(祝島―室津間と比べて利用者が少ない室津―柳井港間の航路廃止)などを提案しているようです。

◎島民の希望

しかし、先日実施された島民アンケートでは、「いわい」と同等の大きさの船で、今まで通り柳井港まで運航することを希望する声が圧倒的に多かったようです。その理由としては、

- ・特に冬期は海が時化ることが多く、安全な航行には「いわい」と同等以上の大きさが必要。
- ・中学生の通学や、高齢者の通院もあり、欠航が多いと困るため、安定した大きい船が望ましい。
- ・柳井の病院に行く高齢者の中には、バスに乗り換えるのが困難な人もおり、柳井港まで運航してもらわないと困る。
- ・祝島出身者の帰省や、祝島を訪れる観光客などの利便性を考えると、駅から徒歩数分で乗船できる柳井港まで運航することが望ましい。
- ・若国や広島の病院に行くのに、駅に近い柳井港まで運航してもらわないと日帰りが出来なくなる。
- ・郵便や貨物の輸送のためにも欠航が少な

く安定して運航できる大きな船が必要。また、十分な貨物スペースも必要である。などがあげられています。

たとえ航路が赤字であっても、島民の生活に欠かせない離島航路は住民サービスとして必要な水準を満たすべきであり、島民の皆さんの希望が叶うように自治体や事業者はできる限りの努力をして欲しいと思います。

◎船舶共有建造制度の紹介

新しい定期船の建造には、多大な費用が掛かりますが、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構(JR-TT)が提供している船舶共有建造制度を利用すれば、建造費用の9割はJR-TTの分担となるため、初期費用を大幅に軽減することができます。その後、元金及び利息相当の金額を共有期間(7~15年)を通じてJR-TTへ使用料として支払い、JR-TTが分担した建造費用を返済します。最終的に、共有船は、共有期間満了時に事業者の100%所有船となります。

さらに、計画・設計段階から就航後のアフターケアまでJR-TTの多彩な技術支援を受けることができます。

このように費用的にも技術的にもメリットがあるため、現在、国内で建造される旅客船や貨物船のおよそ半数が、この制度を利用しています。

最近では、防府市の野島(人口およそ110人)の離島航路が、この制度



野島の定期船「レインボーあかね」

を利用して、高速旅客船「レインボーあかね」(83トン、定員95名)を建造しました。祝島航路でも、この制度の利用を検討してみたいかがでしょうか。

◎これからの離島航路に求められるもの

島民にとって離島航路は欠くことのできない交通手段であり、安全性・快適性・利便性が求められます。一方で、持続的な運航のためには経済性も追求しなくてはなりません。高齢者が多くなっていることからバリアフリー化も考慮する必要があります。さらに、観光によるまちづくりに寄与することも求められます。船体そのものに求められることや、運用方法に対するアイデアなどいくつか挙げてみます。

◆船体について

- ・十分な旅客定員の確保
- ・時化でも揺れの少ない形状と大きさ
- ・車いすなどでの乗船に対応したバリアフリー化
- ・十分な貨物スペースの確保
- ・省エネ化

◆運用・その他について

- ・乗船場のバリアフリー化
- ・電車やバスへの接続利便性の確保
- ・島民割引の導入
- ・年間フリーパスポートの導入
- ・柳井港での駐車場確保
- ・観光船としての利用



島民や旅行者が安心して快適に乗れる新しい定期船ができるだけ早く建造されるよう願っています。

◎「いわいタイムス」5月号は5月3日(日)発行予定です。